PANN News Letter

Vol. 11

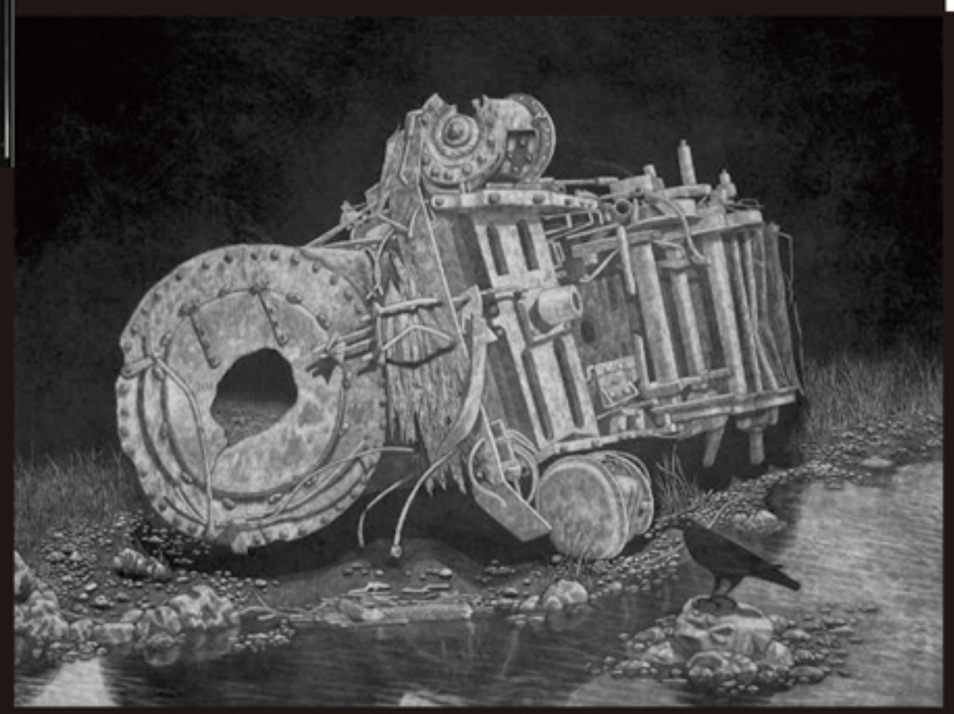
Printmaker's Association of Nishi Nippon　　February 2010

● 会報第11号の発行によせて ●

本年6月に京都市美術館別館で開催される日本・ポーランド国際版画展に向けての特集となります。ポーランドのSMTG（クラクフ国際版画トリエンナーレ委員会）とこの展覧会を企画することになった経緯を坂爪厚生氏に伺いました。ポーランドの興味深い話を黒崎彰氏にお聞きし、作家紹介ではリトグラフの小野知美氏と木版画の三上景子氏を取り上げました。

◆ *Jerzy Mazu*
digitalprint

◆ *Marcin Surzycki*
intaglio



◆ *Christopher Nowicki*
mezzotint

■特集：事の起こりは―クラクフ見聞録―　坂爪 厚生
SMTG(クラクフ国際版画トリエンナーレ)とは　坂爪 厚生
誰も知らない―押しポーランドの名所―　黒崎 彰

■作家紹介　小野 知美・三上 景子

■出版のご案内　片岡 れいこ

■掲示板

KYOTO版画2010

Printmaker's Association of Nishi Nippon

事の起こりは ークラクフ見聞録ー

坂爪 厚生

事の起こりは、二〇〇七年の四月、クラクフのSMTG（クラクフ国際版画トリエンナーレ委員会）代表のスクリッツ教授からのメールである。クラクフ建都七五〇年の記念行事として“From Kyoto to Krakow”-Print Exhibition ーのタイトルで京都の作家たちの版画展をしたい。ついては日本側のキュレーターとして手伝ってほしいというものだった。クラクフの歴史とよく似てる京都と文化的交流をしたいというのがこの企画のもとにあったようだ。黒崎さんとも相談、版画京都展実行委員会が共催という形で KYOTO 版画の七名（大下、黒崎、斎藤、坂爪、佐久間、柴田、武蔵）を含め十五名の作品を出品することを運営委員会で承認してもらった。

会期は十二月十一日から二月二五日まで。会場の“Manggha”（日本美術技術ミュージアム Manggha）はアンジェー・ワイダ監督の京都賞の賞金を基金にして作られた、日本の文化芸術を紹介するミュージアムで、四六〇〇点を超える浮世絵のコレクションでも有名である。クラクフのちいさな空港に降り立ったのは、十二月九日夜おそく、十一時をまわっていた。テレサさんが車でホテルまで送ってくれた。カーテンを開けると、大きな窓一杯に、ヴィスラ河にゆらめく光の影を落として、ライトアップされた古城ヴァヴェルの異形が飛び込んできた。洋画のワンシーンを髣髴させるシチュエーションである。

翌日はホテルに隣接している Manggh ミュージアムに出かけ、マジ館長と展示の打ち合わせ、昼からテレサさんに、クラクフ訪問のもう一つの目的で SMTG に案内してもらった。テレサさんは SMTG のキュレーターであり、スクリ氏の片腕的存在である。

古色蒼然とした石造りの建物の二階の事務所でスクリッツ氏に面会し、版画京都展実行委員会のこれまでの活動など、展覧会の図録やチラシなど見せて説明し、二〇一〇年の春、京都でポーランドの作家との展覧会をしたいので協力してくれないかとお願いした。スクリッツ氏は英語を話さないので、ぼくの片言英語をテレサさんにポーランド語に通訳してもらってのやり取りで、いささか頼りない説明だったが、快く了承してくれた。

黒崎さんは一九七〇年の第三回クラクフ国際ビエンナーレでメダル賞とクラクフ国立美術館賞を受賞し、翌年スクリッツ氏が来日した際、京都を案内している。第四回のビエンナーレではクラクフのガレリア・クリストフォーリーで個展を開催、第五回でも受賞、一九八八年には第十二回国際版画ビエンナーレの国際審査員としてクラクフに出かけている。この間のトリエンナーレでの活躍、度重なるクラクフ訪問などで黒崎さんが深めたスクリッツ氏との親交、さらに、“From Kyoto to Krakow”展での版画京都展実行委員会の共催や支援、協力などの信頼関係によって、日本・ポーランド国際版画展への SMTG の協力が得られたのではないかと思う。

SMTG を辞した後は、古い市街を見学してまわった。

クラクフは蒙古のヨーロッパ侵攻を食い止める砦となった城塞都市で、砦の石の壁があちこち崩れて残っている。この城壁のサークルの内側が街の中心をなし、古い石造りの建物がコンパクトに詰まっている。一時間も歩かないうちに端まで突き抜けてしまいそうである。街全体が世界遺産になっているそうだ。サークルの外側には新しい町が広がっている。

夜になってからテレサさんを訪ね、近くの版画工房を見せてもらった。古い石の建物の中庭に増築された窓の少ない秘密のアジトといった感じだ。いつごろのものか、いかにも古い型のプレスや使い込まれた作業台などが押し込められたような狭い部屋の中で鳥の巣頭やもじゃもじゃひげのおじさんたちが仕事をしていた。電燈の光に浮かび出たその様は、十七、八世紀にタイムトリップしたかと思わせる。彼らは実に陽気で愛嬌があり、これはどうだと自分の作品を披露してくれた。

その夜遅く、十一時過ぎに空港までテレサさんと黒崎さんを迎えに出かけた。

十一日はオープニングレセプションの日である。午前中に悪天候でミラノで足止めされ、一日遅れで到着した山本さんと合流、黒崎さん、テレサさんと一緒にクラクフ美術アカデミーを訪ね、学長のヤン・パムアさんに学内を案内していただいた。アカデミーはどっしりした石造りで、廊下には大理石のギリシャ彫刻?や古き時代の美術品があちこちに置かれ、時代の重みに威圧されそうである。こんな中で制作するのはどんな気持ちだろうと、ふと思った。

続いて、車で別棟の版画教室を訪問。版種別に部屋を持ち、設備も充実しているようだ。

夕方からふりだした強い雨にもかかわらず、オープニングレセプションには五〇人を超える人たちが集まり展覧会の開催を祝ってくれた。パーティの後、場所を変えヤン・パムア学長、オトレウンバ教授夫妻、テレサさん、マジ館長とスタッフが歓迎会を開いてくれ、楽しいひと時を過ごした。（パムア、オトレウンバ両氏とも「日本・ポーランド国際版画展」に出品してくれるとのことです）

翌十二日の早朝、山本さんと一緒にアウシュビッツのユダヤ人収容所跡の見学にクラクフを後にした。すでにアウシュビッツを二度も訪ねたという黒崎さんはクラクフに残り、ポーランドとの国際版画展の詳細な打ち合わせをすることになった。

その日の夕方にはミラノに飛び、ベニスで山本さんと別れたのち、ローマ、フィレンツェと四日間で回り、ミラノから関空という何ともあわただしい駆け足旅行だった。

しばらくして、“From Kyoto to Krakow”展は八〇〇〇人を超える観客が訪れ成功だったとの連絡があった。

追悼
スクリッツ教授の逝去をいたむ

昨年暮れの一二月二八日、クラクフ国際版画トリエンナーレ事務局(SMTG) 委員長のスクリッツ教授が八三歳で逝去されました。クラクフ市で去る一月七日に取り行なわれた葬儀には、本委員会からも献花を行ないました。

SMTG は本年六月に開催する「日本・ポーランド国際版画展」の共催機関であり、展覧会を目前にした急逝は氏自身のみならず、委員会にとっても誠に無念な出来事でした。スクリッツ教授は四〇年余に渡り国際版画展を主導、クラクフの名を世界に認知させ、また特に日本の現代版画に早くから注目、愛した人物として知られてきました。氏のご冥福を心より祈りたいと思います。（黒崎記）

写真／上段／マンガミュージアム遠望／下段／クラクフアカデミー／中央、テレサさん（日本・ポーランド国際版画展に合わせて来日予定）／写真提供／坂爪厚生

KYOTO 版画 2010

木版画 三上 景子

Q1：版画制作を始められたきっかけを教えてください。

高校生の頃に安藤広重の浮世絵と出合い、藍のグラデーションの美しさに惹かれたのがきっかけです。私の木版画に対する固定概念を覆された瞬間でした。

Q2：ご自身の作品の、テーマやコンセプト、最も大事だと考えている事を教えてください。

人が出会い集う場所をモチーフに描いています。誰かとその場所で過ごした時間は一度きりであっても、また別の誰かと同じように集う事に魅力を感じて制作しています。

Q3：木版画の技法は、ご自身の表現にとって、どのような役割を担っていると思いますか？

重ねれば重ねるほど深みを増す顔料のグラデーションの美しさと、機械にはない自身の彫刻刀の彫りあとを残せる大切な手法です。木版画を通して、私の生きている形跡を残せるような気がしています。

Q4：今後の夢をお聞かせ下さい。（作家活動以外でも）

今年は展覧会で賞を頂いたり、私の作品を手帳の挿絵にして頂いたり、制作をしていく上で大変励みとなる一年でした。これからは海外の展覧会にも意欲的に出品していきたいです。一方で、昔していたテニスを再開し、版画制作を客観的に見つめる時間が出来たので、その中でより自分の納得のいく作品が作り続けられたらいいなと考えています。

作品写真／上段：春の披露宴ｎｏ．５／六〇×九〇センチ／木版／二〇〇九／下段：春の披露宴ｎｏ．２／六〇×九〇センチ／木版／二〇〇九

1984年大阪府出身
2008年京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程修了
'08第7回高知国際版画トリエンナーレ展(高知)、日本・アメリカ国際版画展優秀賞(京都・徳島)、第1回ワルシャワ国際グラフィックアートトリエンナーレ展(ポーランド)
'09第6回飛騨高山現代木版画ビエンナーレ奨励賞(岐阜)、京展市長賞(京都)、日本版画展 从20世紀走向21世紀(中国)、クラクフ国際版画トリエンナーレ展(ポーランド)、第54回ＣＷＡＪ現代版画展(東京)
その他、個展・グループ展多数

リトグラフ 小野 知美

Q1：版画制作を始められたきっかけを教えてください。

版画制作は二一歳の時から始めました。嵯峨美の日本画科を卒業してスペインに渡り，現地で通っていた美術学校の素描の先生に勧められてエッチングを習いだしたのが始まりでした。私のラインドローイングがエッチングに合うと思われたんでしょう。実際にやってみると、今まで描いていたものとは違う何か神秘的な要素が加わっていくのが面白くて、新たな可能性にわくわくしました。その頃丁度自分に合った表現媒体を模索しているところだったので、良いタイミングで版画に出会えたと思います。その後渡米し，徐々にエッチングからリトグラフに移行して行きました。

Q2：ご自身の作品の、テーマやコンセプト、最も大事だと考えている事を教えてください。

私は作品に「boundless destination」や「flow」というタイトルをよく使います。これは直訳すると「無限の行き先」そして「流れ」。或る生命から次の生命へと受け継がれて行く、そんな「存在」をテーマにして作品を作ります。自分と同時に存在する他の生命に目を向けてそれらの世界を表現する事は，自身がこの世に存在した記録を残すようなものかも知れません。サブジェクトは種に始まって，細胞，卵，星など，ミクロからマクロまで規模は様々ですが，それぞれを同じ命のエレメントと捉えて描きます。静寂の中に胎動の様に漂う儚い生命の存在と、そこから溢れ出てくる力強い息遣いを作品から感じてもらえればと思います。

私が一番大事にしている事は制作を辞めないという事、そして作品は自分を映す鏡なのでなるべく正直に生きようと心がけています。

Q3：リトグラフの技法は、ご自身の表現にとって、どのような役割を担っていると思いますか？

リトグラフを自分の表現に取入れるようになった理由の一つは素材である石版石自体の美しさです。石の表面が生み出す独特の質感や、版に描く時の手応えは独自の魅力を持っています。そしてもう一つの理由は、自分なりの表現をリトグラフの中に見つけたからです。クレヨンで描く柔らかな感じや、色を重ねていく事で生まれる透明感は、私の作品にとって無くてはならないものです。もしもリトグラフを知らなかったら、きっと現在作っている様な作品は生まれて来なかったと思います。最近はよくモノプリントを作っているので、顔料やミクストメディアを直接手で加えたりしますが，大部分はリトグラフで刷っています。でなければどうも自分の作品として完成した気がしないのです。

作家写真／上段：NYのアトリエにて
作品写真／下段：“dot I”、三五五×三五五センチ／リトグラフ／二〇〇六

Q4今後の夢をお聞かせください。（作家活動以外でも）

人生も半分来てしまったので現実を無視した夢はもう見れませんが、敢えて言うなら、これからたくさん旅をして，いつか自然の美しい田舎に落ち着いて、自給自足をしながら作家活動ができれば幸せだろうなと思います。

大阪府出身
89年嵯峨美術短期大学日本画科卒業
93年ニューヨークに拠点を移し，リトグラフの制作活動を始める。
02年東京国際ミニプリントトリエンナーレ優作賞
04年ポーランド国際ミニアチュアアート・ビエンナーレ佳作
09年国際ミニプリントビエンナーレ佳作
個展は平安画廊、ギャラリーびー玉他
10年秋にアートゾーン神楽岡にて個展を予定。

○SMTG(クラクフ国際版画トリエンナーレ)とは?○

坂爪　厚生

クラクフ国際版画展は 1966 年に第 1 回のビエンナーレが開催され、1988 年の 12 回まで続き、1992 年 SMTG（International Print Triennial in Krakow）が設立されトリエンナーレに改編、現在に至る歴史と伝統ある国際版画展です。SMTG はトリエンナーレを中心に、各種のイベントを企画、運営し、版画に関する豊富かつ詳細な情報を世界に発信しています。Web site で《SMTG　Krakow》を検索すればホームページがみつかります。また、現在、世界各地で公募している展覧会のエントリーフォームもそこからダウンロードできます。

クラクフトリエンナーレ 2009 の本展（main exhibition）は 2009 年 9 月 16 日から 10 月 11 日までクラクフで開催され、ポーランド各地で年末までにテーマ別、技法などの 50 を超える関連展覧会が開催されました。また、2010 年には、本展入選作品による展覧会が、ドイツのオルデンブルグとオーストリーのウイーンで開催予定です。

○誰も知らない一押しポーランドの名所○

黒崎　彰

首都ワルシャワに着いてポーランドーの名所を訪ねたいと問えば、大概のポーランド人は「スターリン宮殿」の異名を持つ巨大な建造物、現在の「文化科学宮殿」へ、それも最上階の展望室へ私たちを案内するだろう。しかし市街を見渡す眺めは見事だが、その階には大きな恐竜の化石が一体鎮座するだけである。不審に感じている訪問者を横目に眺めて、案内人はやおら「ここはスターリン宮殿を見ずに済む唯一の素晴らしい場所なのです。」と説明するに違いない。これはポーランド流ブラック・ユーモアの一例であるが、ただの小話ではなく 30 年前の現実の話であるから、かえってこの國の背負った傷を私たちは痛切に感じずにはいられない。

大国ロシアとドイツに挟まれて位置するポーランドは、これまで苛酷な過去を背負ってきた。この二国に南のオーストリアが加わって、毎年のように国境の位置が変わる無惨な三国分割の長い歴史があり、近くは二度の大戦下において悲惨なホロコーストの体験を重ねている。

「文化科学宮殿」はいかめしい左右対称形の重厚なビルで、いかにもスターリンからの贈物（押しつけ !!）にふさわしい。しかしながら、これほどこの國に似つかわしくない代物も他には見付からない。案内人は続けて「われわれは将来、周りに高層ビルを建て、街のどこから眺めても宮殿が見えないようにする計画です。」と語っていた。

それから 30 年、巨大な宮殿のまわりには実際高層ビルが建ちはじめている。その場限りのジョークかと思いきや、ブラック・ユーモアは今も生き続けていた。まだ宮殿は完全に包囲されていないが、さらに 30 年経てば「一押しの名所」はビルの谷間に確実に埋もれているに違いない。

版画京都展実行委員会

○片岡れいこさん、ガイドブック出版○

京都人の著者がイラストで綴る、全て手描きによるガイドブック　『イラストガイドブック京都はんなり散歩』著：片岡れいこ（メイツ出版）
（お寺もお店もお食事も、思いっきり楽しみたい！行きたい京都にすぐ逢える！とっておきの情報満載。）￥1500（税別）
今春出版いたしました。最寄りの書店でお見かけの際はご笑覧ください。
既刊のガイドブック『イギリスへ行きたい！』『カナダへ行きたい！』著：片岡れいこ（メイツ出版）全国書店にて発売中。

掲示板

会報にお寄せいただいた京都版画展の出品者の展覧会、活動情報です。詳細は会場等へお問い合わせください。

●伊藤尚子
＜Naoko ITO exhibition＞
会期：2010年5月8日～29日
場所：Medialia ; Rack and Hamper Gallery
335 West 38th Street, 4th Floor,
New York, NY 10018-2916 U.S.A.
TEL：1-212-971-0953
e-mail ：http://www.medialiagallery.com/

●黒崎　彰
＜黒崎　彰新作展＞
会期：2010 年 3 月 15 日～3 月 27 日
（日曜休み）
場所：シロタ画廊
東京都中央区銀座 7-10-8
TEL：03-3572-7971

＜黒崎　彰新作展＞
会期：2010 年 4 月 5 日～4 月 17 日
（月曜休み）
場所：ギャルリー宮脇
京都市中京区寺町通二条上ル東側
TEL：075-231-2321

●ツツミアスカ
＜個展　″　.Love　.You　″＞
会期：2010 年 1 月 25 日 (月)～2 月 6(土)
休廊 1 月 31 日 (日)
場所：十一月画廊　〒104-0061
東京都中央区銀座 7-11-11 長谷川ビル 3 階
TEL：03-3289-8880

●弘中征夫
＜西宮美術協会「第 7 回クロスロード展」＞
会期：2010 年 2 月 2 日 (火)～2 月 7(日)
場所：西宮市立北口ギャラリー
〒663-8035 西宮市北口町 1-2 アクタ西宮東館 6F
TEL：0798-69-3160

＜関西国展「第 18 回 HARK 展」＞
会期：2010 年 3 月 16 日 (火)～3 月 21(日)
11:00a.m－7:00p.m(土曜 5:00p.m)
場所：西宮市立市民ギャラリー
〒662-0944 西宮市川添町 15-26
TEL：0798-33-1666

＜国画会「第 84 回 国展」＞
会期：2010 年 4 月 28 日 (水)～5 月 10(月)
場所：国立新美術館
〒106-8558 東京都港区六本木 7-22-2
TEL：03-5777-8600

＜国画会「第 84 回 国展」大阪巡回展)＞
会期：2010 年 6 月 8 日 (火)～6 月 13 日 (日)
場所：大阪市立美術館
〒543-0063 大阪市天王寺区
茶臼山町 1-82
TEL：06-6771-4874

編集後記

最近、某メーカーのヒート○ ○○のタートルネックTシャツを購入しました。今まで、その威力を信じていなかったのですが、仕事先の相方が絶賛するので思わず買ってしまいました。これが想像していたよりも温かい! 色んな メーカーがこの手のものを出しているので、着比べが 出来そうですね。

会報担当：川端千絵、ツツミアスカ、三上景子　編集：ツツミアスカ　発行：版画京都展実行委員会　問い合わせ先(事務局)：075-956-6910